



日本共産党 山田 早苗

### 生活保護制度について

**質問** 生活保護は「人間らしく生きる権利」を国が保障する制度。健康で文化的な生活をどう考えるか。福祉事務所の仕事で市でできるようになったメリットは。保護率の低さをどう思うか。

**答弁** 時代時代の社会で当然とされる生活習慣や、生活様式での暮らしを保障するもの。身近な職員がきめ細かな対応で相談に応じることができるようになった。我慢



無会派 天野美三男

### 機構改革について

**質問** 縦割り行政の弊害の排除や意思決定のスピード化などを目的に4月1日から機構改革を実施したが、所期の目的が達成されているのか。また成果が出ているのか。

**答弁** 本年4月に、定期的人事異動と併せて行政組織機構の改革を行った。見直しのポイントとしては、市の重要かつ喫緊な課題にきめ細かに対応するため、20あった

せずに相談に来てほしい。申請主義なので、民生委員などと連携を取りながら必要な人に行き届くようにしていく。

**質問** 日本政府は「保護申請手続きを簡素化せよ、保護のステイグマ（保護を受けることを恥と思つ気持ち）をなくす教育をせよ」と国連から勧告されているが、保護法改定は逆行する。扶養義務者への調査などプライバシー侵害に繋がるし、申請抑制に進む。扶養義務者の収入など調査必須でなければ記入欄を無くせないか。

**答弁** 今までどおりとする。

### 保育料の減免拡充を

**質問** 子育て世代の定住を願って、保育料への支援を拡充してはどうか。

**答弁** 保育料は、今でも国が示す基準の概ね7割という設定で、負担軽減を図っている。現状維持で。

多方面からの子育て環境日本への取り組みを進めている。柔軟な発想の転換が必要。若者は、情報を敏感に捉え移動する。遊び場の充実等も魅力ある施策を大胆に展開する必要がある。

### 徴収機構について

**質問** 地方税滞納者への人権侵害とも言える強権的な徴収を実施する機構から、市民のためにも職員のためにも撤退すべきだ。相談者からも、派遣されている職員からも実態を聞き取り、対応すべき。

**答弁** 今までどおり機構組織がある間は派遣する。



課・局を23に再編し、併せて、これを統括する3つの部を創設した。

これにより今まで縦割りの対応が多かった市政運営に、いわば横串を刺すことによって、迅速な意思決定や複数課にまたがる政策などに、時代のニーズに応じた行政需要に機動的に市民対応を図ることとした。組織機構改革の成果を現させるためには、職員の意識改革が必要不可欠であり、職員には常々前例踏襲の考え方からの脱却を指示している。

機構改革から8カ月ほど経ったが、最初は戸惑いが見られたものの職員の意識の変化が少しずつ表れ、実効性の高い組織として機能し始めた。

組織機構は生き物であり、ときの政策課題や職員数などに応じてその態様を整える必要があり、試行錯誤の繰り返しである。今後とも試行錯誤を繰り返しながら、機動的



的で実効性の高い組織機構を目指したい。

**質問** 全国の地方自治体では、高度成長期に一齐に整備した学校や集会所の老朽化が進み建て替えに必要な費用が大幅に不足することが見込まれている。公共施設の老朽化への対策は重要な課題と認識しているが、公共施設再編整備について11月に示すと聞いている。回答がないのはなぜか。

**答弁** 全員協議会などでできるだけ早く示したい。



公明党 村上 清彦

### 子育て、若者支援の環境整備について

**質問** 児童虐待の現状はどうか。一層の啓発活動、相談体制の拡充を図るべきではないか。

**答弁** 昨年度で身体的虐待は10人、心理的虐待は19人、ネグレクトは19人であった。継続的に管理している要保護児童の総数は94人となっている。市内関係施設の定期訪問、講演会やプログラム教室の開催、リーフレットの配布、ポ

スターの掲示等啓発に努めている。育児不安の防止を図れるように、あらゆる機会を捉えて相談窓口の周知を進めていく。

**質問** 行政の婚活支援で国の支援も活用し少子化対策を推進してはどうか。

**答弁** 地域の実情を一番身近に把握している民間の活力を最大限に引き出す工夫を図りながら、県から発信される情報の活用及び連携とあわせ、取り組みを推進していきたい。

**質問** 就労に困難を抱える若者の自立支援のために、地域若者サポートステーションのサテライトの設置をするべき。

**答弁** 来年度、新発田市に下越地区の支援拠点として「下越地域若者サポートステーション」の整備が予定されており、今後、開設に向け関係機関で協議を進めることと併せて、阿賀野市サテライトの準備を進めていきたい。



無会派 遠藤 智子

### 二瓶コレクション 竹久夢二作品展場について

**質問** 竹久夢二と阿賀野展が吉田東伍記念博物館で一般公開され、多くの夢二ファンが訪れているが、今後の展示施設の対応を伺う。

**答弁** 来館者から作品の常設展示を望む声もあるが、作品の耐光性、耐湿性などの問題や希少性から簡易な施設での常設展示はなじまないとの専門家の指摘も受けてお

り、作品の保存と公開が両立可能な施設の検討を考えている。作品群の当面の保管施設としては、調査設備が整備されている吉田東伍記念博物館の収蔵庫を考えている。

**質問** 夢二が約80年前に注目した阿賀野の竹を使った竹力ゴ（夢二カゴ）づくりを、市の産業として進めてみてはどうか。竹力ゴづくりの技術の伝承も図れるのでは。

**答弁** 竹力ゴづくりは材料となる竹が使えるまでに一年もの時間がかかり、また技術的にも産業としては難しいと考えている。



### 吉田東伍記念博物館の職員体制について

**質問** 博物館は正職員、臨時職員各1名体制で運営されているが、土、日曜日は臨時職員1名での対応となっていて、企画展等の開催時には土、日曜日に来館者が多く苦慮されている。年間行事等を含めた博物館のスムーズな運営を図るために職員配置の検討が必要と考えているが。

**答弁** 職員の複数配置は、組織全体の業務や職員体制上すぐに専門職員の配置は難しい。今後博物館の支援団体等から力添えをいただきながら体制づくりを考えたい。

**意見** 職員の異動等で職務の引き継ぎに支障が出ないように、職員2人体制での運営を要望する。

